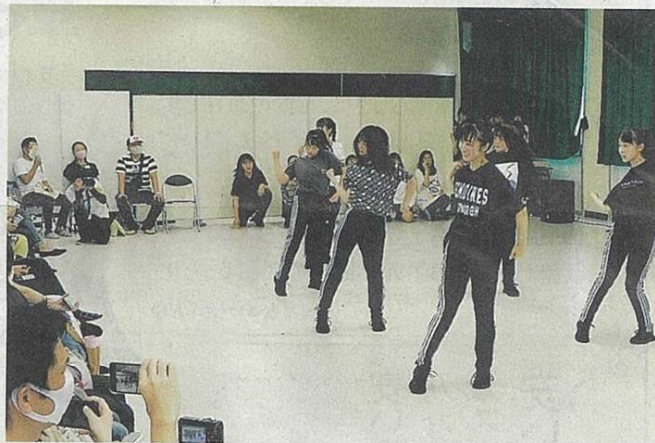


部活、練習の成果披露



時折歓声も上がったダンス部の発表＝加古川南高校

加古川南高文化祭の代替発表会

加古川南高校(加古川市加古川町友沢)が26日、新型コロナウイルス感染症拡大の影響でできなかった文化祭の代替発表会「カコナンフェスティバル」を開いた。ダンス、合唱、音楽、吹奏楽部が時間をずらしてそれぞれ20～30分ずつ発表。保護者らが見守る中、限られた時間で取り組んだ

成果を精いっぱい披露した。同高校の文化祭「南楠祭」は毎年6月に2日間開かれるが、今年は同月によりやく授業が再開し、中止せざるを得なかった。文化祭で引退する3年生もおり、各部顧問たちが「せめて保護者たちに発表できる場をつくろう」と企画した。

ダンス部は軽快な曲に合わせて、部員たちが途切れずに踊った。部長の3年生村上千夏さん(18)は「テンションが上がってむっちゃ楽しい」と声を弾ませた。合唱部は、演目の一つ「レ・ミゼラブル」の「民衆の歌」で、部員6人が順に客席などから歌い始める演出を披露。副部長の3年生石川玲奈さん(17)は「緊張したけどやりきった」と話した。柔道場では3年生全員で作成したモザイクアートが展示された。これまで体験した遠足や体育祭などの写真を題材にし、「つなげよう僕らの青春」と刻んだ。(若林幹夫)